

事業所名

さくら

児童発達支援支援・放課後等デイサービス 支援プログラム

作成日 2025年3月1日

法人（事業所）理念		当事業所には様々なハンディを抱えた子供達が元気良く通ってくれています。みんなその子達なりに一生懸命活動し、生き生きと生活し、すべての子供達が輝いています。子供達が、「ここに来ると楽しい」「ここに来るとなんだか落ち着く」「ここに来ると大好きな人がいる」といった気持ちになるように、そしてご家族様からお子様を安心して預けるように当たり前のことをなのかもしれませんが、そんな事業所を私達スタッフ全員で目指しています。		
支援方針		子供達が楽しめる場所を作り、子供達の「強み」を見つけます。子供達一人一人に合わせた課題を見つけ、チームで支援を行います。 幼児の頃から変わらぬいつもの通所先として、お子様の様子に合わせて、個別・集団のサービスを提供します。 ご自宅、保育園・幼稚園・学校以外の子供達の居場所として安心して過ごせる環境を作ります。		
5 領域 支 援 内 容				
本 人 支 援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 大人や友達とのやりとりを楽しめるよう、スタッフが間に入り、お子様が安心して過ごせる場所を提供します。持ち物の管理、筆記用具の用意と片付けなど、環境の整備を自立的に行えるよう支援します。 個室を使用するなど、お子様が自分のことに集中しやすい環境を作ります。 タイムタイマー、絵や文字のスケジュール表などを使って、予定をわかりやすく伝えます。 		
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 着席して活動する時間と、お友達と自由に遊ぶ時間を設けます。 文字をなぞったり書いたりすることや、迷路、道具を使った制作活動などを通じて、目と手や体と一緒に動かす練習をします。 		
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なものや絵カードを使った課題や、プリント学習の中で、数の操作、形、長さ、大きさ、時間などの概念を学びます。 活動の終わりの時間をタイムタイマーで知らせる、時計にシールを貼って示すなどして、時間を意識して自ら行動することを支援します。 個別の部屋を用意して視覚刺激の少ない環境を作る、イヤーマフを使用するなど、必要に応じて、個々の感覚特性に配慮した環境を設定します。 		
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたいことを伝える、手伝ってほしい時に援助を求めるなど、生活中で自分自身を大切にするために必要な行動を、適切な場面で発揮できるよう支援します。 プリント学習を通して、文字で表したり、文字を読んで理解したりする力を身に付けています。 集団遊びの中で、「入れて」「貸して」と言って相手の返事を待つ、「いいよ」と応じる、「今使ってるよ」「あとでね」と断るといった友達とのやりとりがスマーズにできるようスタッフが見本を見せたりロールプレイングしています。 		
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動や、集団遊びの時間を通して、順番に行う、ルールを守る、友達と協力する、失敗や間違えを受け入れるといった、他者と一緒に生活していくために必要なスキルを身につける機会を作ります。 友達との関わり方にに関して、支援員が見本を見せたり、助言したりして、肯定的な関わりが増えるよう支援します。 		
家族支援	・ご家族様と送迎の際には当日のご様子や最近のご様子の共有を行います。 定期的な個別面談を行い、保護者様のお子様へのお悩みやお困り事などをヒアリングし、出来る限り保護者様の負担を減らすべく支援します。	移行支援	保育園・幼稚園・学校の先生とお子様の様子や支援方針について、情報共有を行います。 インクルージョンの促進を図ります。	
地域支援・地域連携	相談支援事業所や障害福祉サービス事業所・基幹支援センターとの連携を図り情報共有を行います。 併用事業所や保育園・幼稚園・学校との情報共有、支援方法や環境調整の情報連携を行います。	職員の質の向上	月に1回以上の内部研修を行い、障がいへの理解を深めたり、新しい支援方法を学んだりします。毎日のスタッフミーティングで、現在の支援方針について検討し、お子さんや支援方法に関する情報を共有します。	
主な行事等	レクリエーション（季節行事、調理実習、工作、SST、防災訓練、避難訓練）			